

研究主題 「自分の意見をもつための読むことの指導の工夫

—思考力の育成に視点をあてた学習を通して—

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
立川市立第三小学校 主幹教諭 小原 太一

I 研究のねらい

小学校学習指導要領解説国語編（平成 20 年 8 月）では「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことを国語の目標として挙げている。また、文部科学省が平成 17 年 12 月にまとめた「読解力向上に関する指導資料」では、OECD（経済協力開発機構）の PISA 調査（2003 年）の結果から、「我が国の生徒は、『テキストの解釈』、『熟考・評価』、とりわけ記述式の問題を苦手としている」と示すとともに、「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てること」の重要性を述べている。さらに、国立教育政策研究所がまとめた「平成 21 年度の全国学力・学習状況調査の結果」には、「考えの理由が分かるように気を付けて書く児童生徒、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読む児童生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が強く見られる」と示されている。

このことから、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力や、目的に応じて的確に読み取る能力を児童に身に付けさせるために、思考力の育成に視点をあてて読むことの学習を行うことが有効であると考え、本研究主題を設定した。

本研究では、特に文学的な文章の学習において、思考力を育てる具体的な手だてを示した学習モデルを開発する。これまで文学的な文章の学習では、読み取った心情に対し共感したり、感動したりすることを通して、「読むこと」の力を付けることをねらいとし、小学校学習指導要領解説国語編（平成 20 年 8 月）の目標にあるような「思考力」の育成に、必ずしも十分に重点を置いていなかったことを踏まえてのことである。さらに、他教科の学習においても国語で身に付けた思考力を活用するために、応用のできる思考力育成のための視点を示す。

II 研究の内容と方法

研究仮説	読むことの学習において、思考力の育成に視点をあて、思考プロセス（後述）を活用しながら文章を読む力を育成すれば、自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力や、各教科等の学習の基礎となる国語の能力を身に付けることができるであろう。
基礎研究	(1) PISA 調査の結果から、日本の児童・生徒の課題を調査 (2) 国語における「思考力」育成について (3) 算数における「思考力」育成について
開発研究	(1) 国語「文学的な文章」の学習において、思考力を育成するための指導法を開発 (2) 思考力育成の視点を明示した学習指導案を作成 (3) 思考プロセスを用いて考えるためのワークシートを開発 (4) 思考力を評価するための方法を開発 (5) 国語で学習した思考プロセスを算数においても活用するための算数科学習指導案を作成

Ⅲ 研究の結果と考察

1 基礎研究

(1) PISA調査について

2003年にOECDが実施したPISA調査の結果を詳細に見ると次のことが分かった。

- 自由記述問題の無答率は、10問中7問が参加国の平均を約2倍上回っていた。
- 「熟考・評価」の問題の無答率は、参加国の平均を上回ったのが7問中6問であった。
- 「解釈」、「熟考・評価」の正答率は、参加国の平均を下回っていた問題が多かった。
- 「物語」の問題の正答率は、参加国の平均を3問とも全て下回っていた。

これらの問題の正答率や解答率を上げるために、根拠を明確に示しながら論理的に考えて自分の意見をもてるような学習を行うことが必要であると考えた。

(2) 国語における「思考力」育成について

ア 小学校及び中学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）を考察した結果、次の点が言える。

- ・ 「文学的な文章」の学習において、論理的な思考力に視点をあてて指導することで、国語の目標である思考力の育成につながる。
- ・ 場面の展開や登場人物の心情や行動、情景描写などについて根拠を明らかにしながら論理的に読み進めることが、文章の深い理解や感動につながる。
- ・ 「文学的な文章」の学習において、根拠を基にして、登場人物の心情を考えさせる指導を行うと、児童がものの見方や考え方を広げたり、自分の意見をもったりすることができるようになる。

イ 「思考力」を育成する指導法について、国語教育の研究者の文献から、次の点が言える。

- ・ 教師の示した課題に対して、受身的に理解や習熟をするような学習でなく、主体的に学習に取り組むために、自ら課題を見付け、その解決に向かうことができる学習展開を工夫することが思考力の育成につながる。
- ・ 思考力の育成には、課題意識を進んでもち、自らに問いかける態度を児童に身に付けさせることが重要である。
- ・ 思考力の育成には、トゥールミンモデル(図1)を基にした発問や説明が有効である。

トゥールミンモデルとは

イギリスの分析哲学者ステファン・トゥールミンが提唱した議論の論理構造を示すモデルである。議論を行う際には主張だけでなく、その論拠や論拠の裏付け、反証などを示すことで論理的な意見を述べることができるとしている。

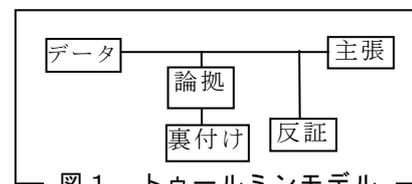


図1 トゥールミンモデル

このモデルは読解の学習に生かすことができる。これまで「読むこと」の指導では、考えを述べさせたとしても、その論拠が十分でなかったり、その論拠の妥当性を検証しないままであったりすることが多かったのではないかと考えられる。そこで、トゥールミンモデルに示された、「論拠」や「論拠の裏付け」、「反証」を考えさせることは、内容を確実に理解しながら、説得力のある考えを述べる力を児童に身に付けさせることになると考えた。教師がこの視点を基にして発問や説明の仕方考えることが重要になる。

(3) 算数における「思考力」育成について

小学校学習指導要領解説算数編（平成20年8月）では、算数における思考力を合理的、論理的に考えることとし、根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えること、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決すること、自分の考えを分かりやすく説明することで育成されるとしている。算数で求められる論理的な思考力、自分の考えを分かりやすく説明する能力は、国語の学習で身に付けさせたい力と一致する。国語で身に付けた力を他教科でも活用する例として、算数の学習において検証授業を実施した。

2 開発研究

(1) 自分の意見をもつための学習モデルの開発

ア 思考プロセス

図1で示したツールミンモデルを基に、文学的な文章の学習で使用する思考プロセス(図2)を開

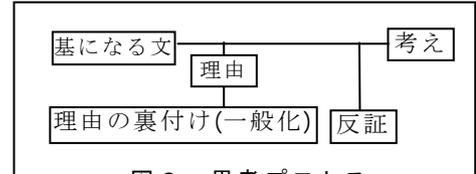
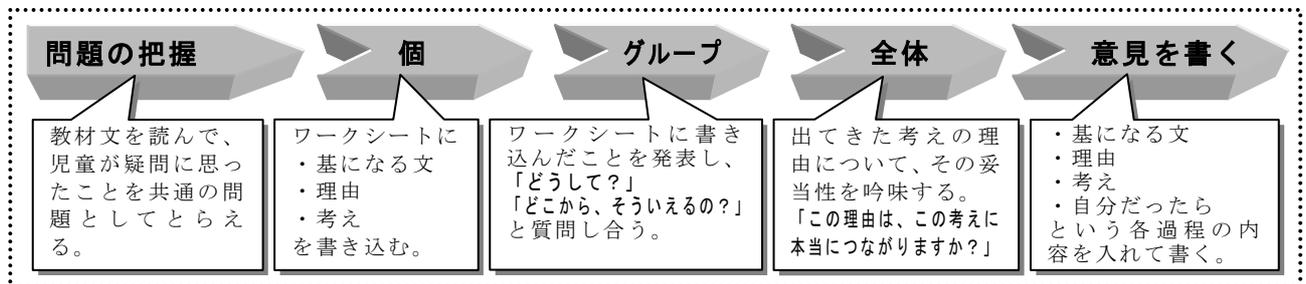


図2 思考プロセス

発した。登場人物の心情を読み取ったり、作品の主題を考えたりするとき、このプロセスの各過程に視点をあてた思考ができるようワークシートや発問等を工夫した。理由の裏付けについては「自分だったら」という視点を入れることにより、引き出すことができる。

イ 思考力に視点をあてた学習の流れ

思考プロセスの各過程に沿って、個々に書いたことをグループで交流する。その上で、自分の考えに不足していた点を書き加えたり、考えを深めたりさせる。さらに、全体で理由の妥当性について吟味することで、論理的な意見をもてるようにする。



ウ 思考力の評価

思考プロセスの各過程に評価基準を設定することで、ワークシートに記入されたものから、論理的な思考ができているかを評価することができる。評価基準は児童がどのように心情を読み取ったか判断するものなので、心情の深い読み取りも合わせて評価できる。

(2) 検証授業

ア 単元の学習

対象 第5学年

単元名 「生き方を見つめて読もう」 〈題材名 「大造じいさんとがん」〉 (10時間扱い)

単元計画

時間	学習活動
1	単元を通してのめあてを知り、学習の見通しをもつ。
2	全文を読んで感動したこと、疑問に思ったことや良いと思った文章表現を書く。
3	全文を読んで登場人物の人物像や、その関係、時間の流れを読み取り、あらすじを書く。
4～7	意味段落ごとに、登場人物の心情を読み取る。
8・9	主題について読み取り、それに対する自分の意見を書く。
10	主題に対する意見を発表し合う。

イ 検証授業の様子（ゴシックの文は、教師の発問や交流により児童が書き加えたもの）

児童が書いたワークシート

疑問 「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしなかった。」とありますが、大造じいさんは、なぜ、強く心を打たれたのでしょうか。

①もともとなる文

1 救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけだった。
2 ふたたびじゅうをおろしてしまった。
3 最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと、努力しているようでもあった。

②その文から分かること（理由）

1 自分は強くなっても、仲間を守るという意志が強い。
2 仲間を守る残雪に対して、自分がひきょうなことをしようとしている。
3 死をかくごしている。
3 残雪は、頭領であることを自覚している。

③考え

・残雪は仲間を思う気持ちが強いということが分かり感動した。
・自分はひきょうなことをしようとしているのに、残雪は頭領としてりっぱな態度を見せたから、鳥なのにすごいなと思った。

④意見

・「救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけだった。」「ふたたび…(中略)の文から、自分は強くなっても、仲間を守るうという残雪の意志の強さが伝わってくる。また…(中略)ということから、大造じいさんは強く心を打たれた、ということが分かる。
仲間のために命をかけて戦うすがたには、私も感動すると思う。仲間を救おうとする相手に対して、私もじゅうをおろしてしまうだろう。」

授業中に行った教師の発問や、グループでの交流における質問。

「ふたたびじゅうをおろしてしまっただけ」という文から、どうして、大造じいさんが強く心を打たれたことが分かるのですか。

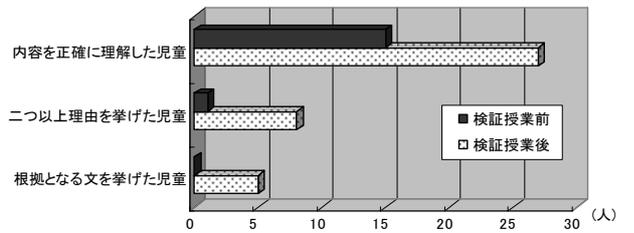
教師の発問
自分がひきょうなことをしようとする、どうして、強く心を打たれるのですか。

教師の発問
自分が大造じいさんだったかな。

(3) 検証授業の分析と考察

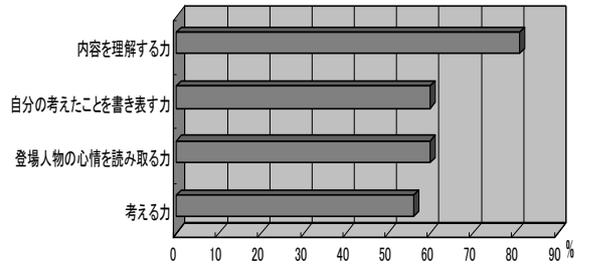
効果測定は、他の教材文を使い、「登場人物はなぜ〇〇したのか。」という問い掛けに対する児童の答えを分析した。その結果、検証授業後には内容を正確に理解できる児童や、理由を二つ以上挙げる児童、根拠となる文を挙げる児童の割合が増えたことが分かった。

検証授業を通して、内容を正確に理解する力がついたらと分かる



また、検証授業後に行った「この学習を通してどんな力が付いたと思うか」というアンケートからも、「内容を理解する力」を挙げた児童が80%に達していることが分かり、効果測定の結果を裏付ける結果となった。

思考プロセスに視点をあてた学習が、内容を理解する力につながると分かる



児童の書いたワークシートからは、「基になる文」→「理由」→「考え」の順を追って、自分の考えを論理的に表現することができるようになったことが分かった。さらに、思考プロセスを活用した学習では、論理的に考えて意見を述べる力だけでなく、内容の正確な理解の下、登場人物の心情を深く読み取る力を付けていることが分かった。

算数（第5学年「小数の倍とわり算」）における検証授業では、既習事項を使い、新しい計算方法や考え方を見付け出す設問、または演算決定の理由を問う設問で問題解決を行うと、根拠や理由を基に思考することが分かった。思考プロセスの視点を取り入れることで、国語で身に付けた力を、算数の学習においても活用できることが分かった。

IV 今後の課題

- ・ 思考力の育成に視点をあてた指導を通年で行い、論理的に意見を述べる力を付けさせる。
- ・ 高学年で効果のあった授業モデルをさらに工夫し、低学年におけるモデルを作成する。
- ・ 他の教科でも、今回開発した思考プロセスの視点を取り入れた授業を実践する。